

狂歌短冊集

跡人	聞時鳥 我きたる夜着ともしらてほとゝきすきく嬉 しさにゆりをこしけり	一
綾繁	一日千首よみける中 山柳 真柳にまさかとへれす香久山をあひあらそ ひしむかし語りは	二
綾繁	一日千首よみける中 野時雨 まねきかし尾花の袖のちきれ雲しくれて野 辺に人を追やる	三
石成	春雨 つれ／＼をよむも徒然なるまゝに日くらし かぬる春雨の宿	四
一水	寄恋 木のもとに花の白雨しきれともさりとてぬ れぬ袖の臂笠 (巻) 勢陽津町 雪中庵	五
笑顔	富士山 ふしの嶺を日毎積上るしら雪は降りいてし もとの雲に入らむ (巻) 眞顔門 書肆涌泉堂主人新橋加賀町の人 別号愛 亭 弘化三年没五十八	六
大道	すみた川さくら見に来る人数のおよそ遠舟 にはかるころかな (巻) 千又庵大道 通称吉田仙太夫 上野館林藩士	七

狂歌短冊集

大道	里の名はふしみといへと藤原とあふけは高 き花の山／＼ 初恋 紫のいとけなきをも恋る身にわらハといへ る病似合し	八
音高	〔霞外子〕 世の中を何にたとへむ朝はらけこき行舟の あとのしら浪* (巻) 霞外子	九
岳住	花さそふあらしの山のひとむれにふりゆく ものハ吸筒の酒 (巻) 芝口屋岳住 江戸芝口三丁目 大井堂主	二〇
影住	夕立 蚊屋出してつる間遅しと夕立にそらよりさ ける稲妻の鍵	二一
嘉門	夏の夜の月も虫はむ用心にくもの袖から風 やいれけん (巻) 新日吉御所御内(印) 司馬の屋	二二
可来	化物年酒 石臼の化ものかなす年のさけかさねてまは す屠蘇の盃 寄松祝	二三
菊人	豊なる御代を祝ふていつこにもことひきう たふ姫松の風 (巻) 秋菊人 別居直垣庵 通称中村庫太 下野茂木 武家	二四

伽羅丸

晴わたる空にこゝろをうつ蟬の月にうかれ
て寝やへぬけから

一六

狂歌庵

盛花
よしの山花を見る人雲の如見らるゝはなも
またくもの如

一七

響人

奥州福島 四方白壁倉持 俗名山中鹿住郎
柏木のあもんなかしのまりほとにけのころ
雪に若菜摘てむ

一八

清志

五月雨
五月雨の雲の上なる月や日はうつむひてこ
そはれを待らし

一九

隅成

浅流庵清志 通称小川伊太郎 江戸深川人
村雨の宿りはひるも木のもとへしはしはよ
るのから崎の松

二〇

栗埜

九月十三夜宵のほと曇りかちなれと
戌比より清光なれは
曇り気もさつはりはれてよしやよのあらた
まりぬる此後の月

二一

栗間戸

市場夕立
横しふき軒の火縄も打消てあとハ水なす夕
たちの市

二二

〔螢窓〕

萩の舎てふことを折句によめるとき
は皐月なかハ
はなやかにさミか植つるミなと田はのちの
みのりもやつか穂にして

二三

砂角

〔裏〕 螢窓
寺院埋火
火桶にもはひさいのよき薬王寺きへんとす
るをいけた埋火

二四

ヒ盛

此歌注あり
高砂のかねなりかもと住の江のうらなく
ちぎれ松のちとせも

二五

七盛

〔裏〕 浪華の著作家曉鐘成におくりし歌也
独寝ハたれに遠慮もなつの夜のかやをはら
ます扇すゝしも

二六

〔貞子〕

月前梅
春のよの梅の匂ひにあくかれてひかりもか
をる月のかけかな

二七

里人

〔裏〕 十三才貞子
石網うしの老のかふ□□に宿をかへ
てかく斗広き田舎に住ながら狭き宿りに客を
寝かして

二八

里人

森若草
幾千世もかわらぬ春は神のますめくみもみ
ゆる森の若草

二九

砂楽

卯花
門松のあとへ植れハ疑ひもなゝたひかるゝ
卯の花の雪

三〇

三〇城
里

老の浪寄りくるまでもさわりのふつむりハ
比良の雪と見ゆらん

三一

繁成

松
初瀬女のはひ袋かすれあへハ下ふところ
の檀香そする

三二

二水

花
折なとて花守しかるしかれともしからるれ
ともほしき一枝

三三

〔裏〕 初号片絮台曲流 又角南謡足通称見田清一 名古
屋人 二水楼

舎 風

若菜
たちちねの為そ雪間の若菜摘こほりの底の
根せりもとむも

(裏) 東都薫亭

四

空 寝

志賀山越
さゝ波や大津脚半も白くして花に踏こむ志
賀の山越

(裏) 空寝狸。別号鼓腹亭。通称木村祐助。上野前橋土人。

四

舎 風

古寺花
入相のかねはきけともいふとハおもハね
三井の花の夕暮

(裏) 東都薫亭

三

大 遊

寄花器恋
床かけに一もといれしお道具のいつまで花
の水あけるやら

四

酒 楽

雪
豊年の雪のつもれる世にもまた枝をならさ
ぬ松の下折

三

種 彦

晩秋
秋ふかミ草葉の床のあれてわかあとへ枕辺
蟋蟀なくも

四

丈 叟
歳八十九

見るさえも目の薬かと夕暮や露は真珠と光
る茂り葉

三

種 秀

築瀬大人の栄を祝ひまつらんと
清らかに築瀬の水の留なくなかれて猶も御
代を久しき

四

如 水

待たるゝもさかりも散も山さくらこと葉の
花のさかぬ日はなき

(裏) 藤根堂。瓢の彫刻に名あり。享保中。

三

種 秀

春月
咲花にうかれて人はいつるよをかすみにし
つむ春の月影

四

墨 繩

時雨
鈴の音ふりミふらすみむら時雨かくらの岡
の神無月そら

(裏) 橋中館

三

種 丸

歳旦
鶯のうたの奇特やかけ取のおにのこゝろも
和らけるけさ

四

俤 齋

寄海恋
恋くて海をそなせる床のうへにうれし泪
のさし汐もかな

(裏) 飛騨高山森豊直。字庄右衛門。

四

玉 雄

紅葉
水にうつる川添紅葉簪かとみる落鮎の胸や
焼らん

(裏) 不夜楼玉雄。杉山氏。名古屋人。通称浅野屋代治文化頃。

四

〔宗先〕

寒川いく世かへぬるふく風の声のすめるは
年ふかきかも

(裏) □庵宗先

四

玉 湧

夢
おそろしさすかたはしかと覚えねとむねに
手のある化物の夢

(裏) 篠野玉湧。不斷庵又蛸池天国と号す。名古屋人。寛政代。不斷庵。

四

園 丸

郭公
住よしの松ものいはゝほとゝきすかたらひ
合て十かえりもなけ

(裏) 桃源亭園丸。名古屋人。醉竹側判者。桃源亭。

三

為 成

野梅
ふみ越る野川は浅し此頃の梅は匂ひの淵に
なれとも

三

狂歌短冊集

東流	無色知一の賀をいはひよめる 万代を六十ひとせとかそふれハのこりは るけき君かみよ哉	三	花筒	牡丹をめぐミて とみ栄ふ宿とハかねて知なからいさや恵ま ん此富貴草	三
常世	達磨にもつくれる雪の卯の花にこしを居た く思ふ此宿	三	葉丸	寄閑恋 逢事ハ人目の関にとめられてうき名斗そ先 へ返れり (愚) 辯賞葉丸 別号一見亭 犬山人 通称山形屋仙蔵	三
〔寿子〕	山家夏月 たきの音も夏ハすしき山里の軒端をてら すみしか夜の月 (愚) 山井寿女 姓神保氏 泉源松六帖園雅雄に嫁し大 谷とし女といふ 水魚連判者 寿子	四	春友	女といふ事を 来る客に吸付て出すきせる迄下へハおかぬ 妹か愛想 (愚) 千花園	四
俊古	寄憚恋 さとられぬ中をむつミて契る也恋は情の以 心伝心 (愚) 千比亭俊古 通称松島新六 尾張犬山人	五	春根	卯花 うのはなはひとりすしきくものをゆき か月かとうたがはれけり	五
南子	明からすミつよつふたつきぬくのたかわ かれちに鳴てゆくらん	五	春則	待時鳥 まつ人のありと知らてや行過て跡もとりし つゝ鳴ほとゝきす	五
乗打	我妹子に袖ひかるゝと見し夢のやふれてく やし晩のそら (愚) 無沙汰察打 通称梅本傳舟 名古屋人 五葉舎	五	離丸	孝行百首詠たる中に 孝行にちからをいれていつ迄もめくミの重 き髪ハ持たし	六
梅鳥	こなたから仕入の墨の油煙齋いまはのほら てくたる大江戸	六	離丸	歌よミて世を遊行せは御伝馬もまた藤沢に 添ふてあるへき	六
梅鳥	君か世ハあ□□□□小松原ふしの高根と おなしけるまで	六	琵琶磨	名所松 たのしさは浪のつゝミに風の琴寝こゝろい かに手まぐらの松	六
梅幽	離祭 行末はち切とおやは桃の枝のすくなを活け て祭るかみ雛	六	武王	くむ酒の数さへもゝの盃にいやよひまして うとふ万代	七
羽倉	羈中思古郷 ひとはいさ心のかよふ古郷や旅はういもの つらゆきの真似 (愚) 羈中は羈中若くは羈中の誤 蛇訂正 羽倉ノリユ キ江戸数寄屋橋住 狂歌名算木有政 別号常総 鹿 寛政六年没	六	真枝	田家 早稲晚稲俵につくりくたひれてからたも繩 になる田舎かな	七

真惠美	真臣	直楫	真清	松丸	丸二	御空	三千春	通丸	狂歌短冊集
みあのうら島に替りて玉手箱ひらきたるところをあかきたるに皺は皆浪にゆつりて玉手箱あけても暮てもみとり毛の亀	雪 転ひたる仕形咄しにちる灰の袖打払ふ雪の夕昏	鶴公鳥 五月来て鳴宝と云す声たえすおのかさつきとなくほととぎす	立春風 東路に出所もしるき春風ははつ日のあゆミ静にそ吹く	松魚 ほととぎす一羽きなけは初松魚にはとむて□るはしり商ひ	青陽軒松丸 通称大和屋喜兵衛 大坂人	恋の心をよめる廻文 待夜半にとひもしましをみの身の身をし巻しも人には夜妻	天津御空 別号長閑坊 僧侶 陸奥人	吹なかくすのほりに瀧の音ありて子持筋なる鯉のいきほい	年頭御礼のふし雨のふりけれハ下宿にてかさかかりて
三	三	三	三	三	三	三	三	三	
通丸	通丸	通丸	通丸	通丸	通丸	通丸	通丸	通丸	
邯鄲の枕させたや七夕のまれのあふせを夢にあくほと	七夕 七夕の恋しり顔に恋すてふひとハなミたの雨ハふらさし	年暮 世話しさに八重も一重も有ぬへし手ことにさかす餅はなの枝	年暮 肩たすぎ千鳥にかけて煤掃にはき集たるちりやちりく	厄としのさわりなきを祝して さわりなり四十卷式三番叟よろこひありや厄の年越	三十五日の手向に なき人に手向とつゝることの葉の五七のかすの忌日かなしき	変恋 痛ひめをしたるかひなし入墨のいまさら反古となる身こそうき	高雄山の楓葉見にまかりて 時しらぬ雪は一富士二は高雄ときしる雨に染るもみち葉	江戸杜鵑 ひと声のそらなきもかな平仲か目黒をすくる山ほととぎす	杜鵑鳥 友儔の空はれ合ひの美しきその色とりのころも手の森
六	六	六	六	六	六	六	六	六	
花曇り卯の花くたし其あひに咲てひの照る姫つゝし哉									

目 積

涼しきは夏も秋かといは蔭や清水ハ苔の衣
うつ音

司堀坊
籬胤

世の中の苦楽は人に限らしな梅かわらへハ
鶯は啼

𠂔

基 頼

菊のさかりをよみ侍る
文学ふ窓を明るく照らしけりはたるの黄き
く雪のしら菊

(裏) 長忍亭基頼 別号白梅園 通称大坂屋甚兵衛 江
戸人 長忍亭

了 祐

うちあはす賤か構衣も小よ更て老かねさめ
の友と聞ける

(裏) 古筆了祐名定当 古筆家九世 天保五年没年八十
四名 人忘辰録

𠂔

諸 実

河添の根に吸あけし水ほとはえたから戻す
青柳の露

寄櫛恋

𠂔

了 祐

秋のよはつりさせく啼むしにあはれ淋
しきねさめなる覧

𠂔

悠 久

逢ぬ間はねくたれ髪も其まゝにちりこそ積
れ亀のさし櫛

𠂔

思ふ人ありともよしやあしの筆おのか気ま
ゝになすものはなお

二〇

米 守

くたり荷の鏡ひとつも打こまて浪路静けき
住吉の浦

(裏) 依米守 花咲庵 閑寿亭 上総木更津人 臥竜園
判者 嘉永初年没

𠂔

□ □

近世諸家短冊集(一) 和歌之部

句番 一 いろ	正	↓	い	鶺鴒	正	句番 一 鶺鴒	正	↓	鶺鴒	正
七 可	↓	哥	於也閉婆	於毛閉婆	ミよし野の	句番 二 鶺鴒	正	↓	鶺鴒	正
二 盤昌	↓	繁昌	にあえよ	うめかあ	うめかあ	句番 三 鶺鴒	正	↓	鶺鴒	正
三 トモ	↓	トモ	時雨(題)	うめかあ	うめかあ	句番 四 鶺鴒	正	↓	鶺鴒	正
五 伊豆	↓	伊兵へ	池の汀も	池の汀の	雪	句番 五 鶺鴒	正	↓	雪	正
七 伊予	↓	伊与	浪も	浪に	童女	句番 六 鶺鴒	正	↓	童女	正
七 弘嘉	↓	弘喜	狂哥をと	狂哥をと	奥しき	句番 七 鶺鴒	正	↓	奥しき	正
三 甲虫	↓	甲四	案内者	案内者	かね	句番 八 鶺鴒	正	↓	かね	正
三 追加	↓	追加入	案内者	案内者	鶺鴒	句番 九 鶺鴒	正	↓	鶺鴒	正
三 岡崎	↓	岡嶋	若菜	若菜	山も	句番 十 鶺鴒	正	↓	山も	正
七 紹通	↓	紹意	近世諸家短冊集(一)	近世諸家短冊集(一)	狂歌短冊集	句番 十一 鶺鴒	正	↓	狂歌短冊集	正
七 しら藤	↓	はな散	二 めつらに	二 めつらしき	二 めつらしき	句番 十二 鶺鴒	正	↓	二 めつらしき	正
二 良介政次書	↓	政次書 二良介	八 寒の葉	八 寒の葉	八 寒の葉	句番 十三 鶺鴒	正	↓	八 寒の葉	正
六 正秀	↓	政秀	三 目好	三 目好	三 目好	句番 十四 鶺鴒	正	↓	三 目好	正
六 おのつ	↓	おのす	六 諏訪	六 諏訪	六 諏訪	句番 十五 鶺鴒	正	↓	六 諏訪	正
六 蔵に	↓	減に	三 花妃関	三 花妃関	三 花妃関	句番 十六 鶺鴒	正	↓	三 花妃関	正
二 門弟	↓	門弟也	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 十七 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
七 懷子入	↓	懷子ニ入	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 十八 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
七 七兵衛	↓	七郎兵衛	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 十九 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 七兵衛	↓	七郎兵衛	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 浄見寺	↓	紀州若山浄見寺	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十一 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十二 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十三 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十四 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十五 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十六 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十七 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十八 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 二十九 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十一 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十二 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十三 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十四 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十五 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十六 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十七 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十八 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 三十九 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十一 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十二 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十三 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十四 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十五 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十六 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十七 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十八 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 四十九 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十一 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十二 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十三 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十四 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十五 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十六 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十七 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十八 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 五十九 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十一 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十二 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十三 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十四 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十五 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十六 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十七 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十八 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 六十九 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十一 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十二 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十三 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十四 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十五 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十六 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十七 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十八 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 七十九 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十一 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十二 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十三 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十四 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十五 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十六 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十七 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十八 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 八十九 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十一 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十二 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十三 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十四 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十五 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十六 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十七 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十八 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 九十九 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正
二 康成	↓	康成	四 心有らね	四 心有らね	四 心有らね	句番 一百 鶺鴒	正	↓	四 心有らね	正